

書記ヨリ之ヲ對手人ニ送達ス可シ

第四百十七條

上告申立人ハ其申立ヲ爲シタルヨリ

五日內ニ趣意書ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ

書記ハ上告趣意書ヲ受取リタルヨリ二十四時內ニ

之ヲ對手人ニ送達ス可シ

第四百十八條

對手人ハ上告趣意書ヲ受取リタルヨ

リ五日內ニ答辯書ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出ス可

シ

書記ハ其答辯書ヲ受取リタルヨリ二十四時內ニ之

ヲ上告申立人ニ送達ス可シ

第四百十九條

檢察官ヨリ差出ス可キ上告趣意書又

ハ答辯書ハ二通ヲ作り一通ヲ大審院ニ差出シ一通
ヲ對手人ニ送達ス可シ

私訴ノ裁判言渡ニ對シ訴訟關係人ヨリ差出ス可キ

上告趣意書又ハ答辯書ニ付テモ亦同シ

第四百二十條

書記ハ前數條ニ定メタル期限經過レ

タル後速ニ訴訟書類及ヒ上告書類ヲ其裁判所ノ檢

察官ニ差出ス可シ

檢察官ハ其書類ヲ五日內ニ大審院檢察長ニ差出シ

且意見アル時ハ之ヲ添フ可シ

檢察長ハ上告事件ヲ刑事局ノ簿冊ニ登記ス可キ

ヲ院長ニ請求ス可シ

第四百二十一條 上告申立人及ヒ對手人ハ代言人ヲ
差出ヌコトヲ得

重罪ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者上告ヲ爲シ又ハ檢察
官ヨリ重罪ノ刑ニ該ル可キ者トシテ上告ヲ爲シタ
ル場合ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル者自ラ代言人ヲ
選任セザル時ハ院長ノ職權ヲ以テ其院所屬ノ代言
人中ヨリ之ヲ選任ヌ可シ

第四百二十二條 院長ハ刑事局判事中ニテ專任判事
一名ヲ命ヌ可シ

專任判事ハ一切ノ書類ヲ檢閲シ其報告書ヲ作ル可
シ但自己ノ意見ヲ付ヌ可カラズ

第四百二十三條 上告申立人及ヒ對手人ハ專任判事
ノ報告書ヲ差出ヌマテハ大審院書記局ヲ經由シテ
其趣意ヲ擴張ヌ可キ辯明書ヲ差出ヌコトヲ得
專任判事報告書ヲ差出シタル後辯明書ヲ差出シタ
ル時ハ之ヲ其報告書ニ添フ可シ

第四百二十四條 書記ハ開廷ヨリ三日前ニ開廷ノ日
時ヲ上告申立人及ヒ對手人ノ代言人ニ報知ヌ可シ
第四百二十五條 開廷ノ日ニハ公廷ニ於テ專任判事
其報告書ヲ朗讀ヌ可シ

檢事長及ヒ代言人ハ各其趣意ヲ辯明ヌ可シ
私訴ノ上告ニ付テハ檢事長最終ニ其意見ヲ陳述ス

可シ

第四百二十六條 上告申立人又ハ對手人ヨリ代言人

ヲ差出サ、ル時ハ其儘ニテ判決ヲ爲ス可シ

第四百二十七條 大審院ニ於テ上告ノ理由ナシトス

ル時ハ之ヲ棄却スルノ旨渡ヲ爲ス可シ

第四百二十八條 大審院ニ於テ豫審又ハ公判ノ旨渡

ニ對スル上告ニ付キ破毀ノ原由アリトスル時ハ其

旨渡ノ全部ヲ破毀シ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移スノ

旨渡ヲ爲ス可シ但後ノ數條ニ記載シタル場合ハ此

限ニ在ラス

第四百二十九條 擬律ノ錯誤若クハ法律ニ背キ公訴

ヲ受理シ又ハ受理セサルコトニ因リ原裁判旨渡ヲ破

毀シタル時ハ其事件ヲ移スコトナク大審院ニ於テ直

チニ裁判旨渡ヲ爲ス可シ

第四百三十條 豫審又ハ公判ノ手續規則ニ背キタル

コトアリト雖モ其後ノ手續ニ利害ヲ及ボサ、ル時ハ

其事件ヲ他ノ裁判所ニ移スコトナク止メ其手續ヲ破

毀ス可シ

第四百三十一條 豫審又ハ公判ノ旨渡ノ幾分ニ對シ

上告アリタル場合ニ於テ他ノ部分ニ關係アラサル

時ハ大審院ニ於テ其上告ニ係ル部分ヲ破毀シ法律

ニ從ヒ直チニ相當ノ裁判旨渡ヲ爲シ又ハ其事件ヲ

他ノ裁判所ニ移ス可シ

第四百三十二條 大審院ニ於テ原裁判言渡ヲ破毀シ直チニ裁判言渡ヲ爲シタル時ハ原裁判所又ハ他ノ裁判所ヲシテ其執行ヲ爲サシム可シ

第四百三十三條 大審院ニ於テ破毀シタル事件ヲ他ノ裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲ス可キ時ハ原裁判所ニ接近シタル同等ノ裁判所ヲ定示ス可シ其單ニ私訴・ニ係ル事件ハ之ヲ民事裁判所ニ移ス可シ

第四百三十四條 法律ニ係ル大審院ノ判決ハ確定ノ者トス

大審院ヨリ送付ヲ受ケタル裁判所ノ裁判言渡ニ對

シテハ通常ノ規則ニ從ヒ更ニ上告ヲ爲スコトヲ得

第四百三十五條 法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シ又ハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル場合ニ於テ定期内ニ上訴スル者ナクシテ其裁判言渡確定シタル時ハ大審院檢事長ヨリ司法脚ノ命ニ因リ又ハ職權ヲ以テ何時ニテモ非常上告ヲ爲スコトヲ得

非常上告アリタル時ハ原裁判言渡ヲ破毀シ大審院ニ於テ直チニ裁判言渡ヲ爲ス可シ

第四百三十六條 左ノ場合ニ於テハ大審院ノ裁判言渡ニ對シ檢事長其他訴訟關係人ヨリ其院ニ哀訴ス

ルヲ得

一大審院ニ於テ前數條ニ定メタル式ヲ履行セサル時

二訴訟關係人ヨリ申立タル條件ニ付キ判決ヲ爲サ
ル時

三同一ノ裁判言渡ニ付キ二箇ノ條件齟齬シタル時
第四百三十七條 哀訴ヲ爲サントスル者ハ裁判言渡

アリタルヨリ三日内ニ書記局ニ其申立ヲ爲ス可シ
書記ハ申立書ヲ受取リタルヨリ三日内ニ之ヲ對手
人ニ送達シ對手人ハ同一ノ期限内ニ其答辯書ヲ差
出ス可シ

大審院ニ於テハ通常上告ノ規則ニ從ヒ哀訴ノ判決
ヲ爲ス可シ

第四百三十八條 大審院ノ裁判言渡ハ其言渡アリタ
ルヨリ三日間又哀訴アリタル時ハ其判決アルマテ
執行ヲ停止ス

第二章 再審ノ訴

第四百三十九條 再審ノ訴ハ左ノ場合ニ於テ重罪輕
罪ノ刑ノ言渡ニ對シ被告人ノ利益ノ爲メ之ヲ爲ス
ヲ得但裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スヲ得
ス

一人ヲ殺シタル罪ニ付キ刑ノ言渡アリタル後其言

渡ノ日ニ當リ殺サレタリト認メラレシ者現ニ生存シ又ハ犯罪前既ニ死去シタルノ確證アリタル時

二同一ノ事件ニ付キ共犯ニ非スシテ別ニ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アリタル時

三犯罪アル以前ニ作リタル公正ノ證書ヲ以テ當時其場所ニ在ラサルコトヲ證明シタル時

四被告人ヲ陷害シタル罪ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アリタル時

五公正ノ證書ヲ以テ訴訟書類ニ偽造又ハ錯誤アルコトヲ證明シタル時

第四百四十條 再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得可キ者左ノ如シ

一刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察官

二刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ヲ管轄スル控訴裁判所ノ檢事長

三大審院檢事長但司法卿ノ命ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其訴ヲ爲ス可シ

四刑ノ言渡ヲ受ケタル者

五刑ノ言渡ヲ受ケタル者死去シタル時ハ其親屬

第四百四十二條 再審ノ訴ヲ爲サントスル者ハ其趣
 意書ニ原裁判言渡書ノ謄本及ヒ證憑書類ヲ添ヘ之
 ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出ヌ可シ
 原裁判所ノ檢察官ハ其書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ大
 審院檢事長ニ差出ヌ可シ
 原裁判所ノ檢察官及ヒ控訴裁判所檢事長自ラ再審
 ノ訴ヲ爲サントスル時ハ前項ノ手續ニ從ヒ其書類
 ヲ差出ヌ可シ
 第四百四十三條 大審院ニ於テハ檢事長ノ請求ニ因
 リ速ニ專任判事一名ヲシテ其取調ヲ爲シ報告書ヲ
 差出サシム可シ

第四百四十四條 大審院ニ於テハ他ノ事件ヲ閣キ刑
 事局判事全員會議局ニ集會シ專任判事ノ報告書及
 ヒ檢事長ノ意見書ニ依リ判決ヲ爲ス可シ
 第四百四十五條 大審院ニ於テ再審ノ原由アルヲ
 認メタル時ハ原裁判言渡ヲ破毀シ公訴及ヒ私訴ニ
 付キ再審ヲ爲ヌ可キヲ言渡シ其事件ヲ原裁判所
 ト同等ナル他ノ裁判所ニ移ス可シ
 其送付ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ通常ノ規則ニ從
 ヒ裁判ヲ爲ヌ可シ
 第四百四十六條 死者ノ親屬ヨリ再審ノ訴ヲ爲シタ
 ル場合ニ於テ大審院ニテ再審ノ原由アルヲ認メ

タル時ハ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移ス可キナク原裁判
言渡ヲ破毀ス可シ

第四百四十七條 再審ノ裁判ニ因リ無罪ノ言渡アリ
タル時又ハ前條ノ場合ニ於テ破毀ノ言渡アリタル
時ハ其者ノ名譽ヲ復スル爲メ其言渡書ヲ揭示公告
ス可シ

第三章 裁判管轄ヲ定ムルノ訴

第四百四十八條 通常裁判所ト特別裁判所トヲ間ハ
ヌ管轄ニ非サルノ言渡ヲ爲シ其言渡確定シタル時
又忌避ノ原由若クハ非常ノ事變ニ因リ訴訟事件ヲ
管理スルコト能ハサル時ハ檢察官其他訴訟關係人ヨ

リ裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ爲ス可キヲ得

大審院檢事長ハ司法卿ノ命ニ因リ又ハ職權ヲ以テ
其訴ヲ爲ス可キヲ得

第四百四十九條 裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ爲サント
スル者ハ其趣意書ニ訴訟書類ヲ添ヘ之ヲ大審院ノ
書記局ニ差出ス可シ

第四百五十條 大審院ニ於テハ刑事局判事五名以上
會議局ニ集會シ專任判事ノ報告書及ヒ檢事長ノ意
見書ニ依リ裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ判決シ其事件
ヲ管理ス可キ裁判所ヲ定示ス可シ

第四章 公安又ハ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ

第四百五十一條 犯罪ノ性質被告人ノ身分員數地方ノ民心其他重大ナル事情ニ因リ裁判ニ對シ紛擾又ハ危險ヲ生スルノ恐アル時ハ公安ノ爲メ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移スヲ得

第四百五十二條 公安ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ハ司法卿ノ命ニ因リ大審院檢事長ヨリ其院ニ之ヲ爲ヌ可シ

第四百五十三條 大審院ニ於テハ會議局ニテ訴訟關係人ノ申立ヲ聽クヲナク速ニ前條ノ訴ヲ判決ス可シ

第四百五十四條 被告人ノ身分地方ノ民心又ハ訴訟ノ模様ニ因リ裁判ノ公平ヲ維持スルヲ能ハサルノ恐アル時ハ嫌疑ノ爲メ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移スヲ得

第四百五十五條 嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ハ管轄裁判所ノ檢察官其他訴訟關係人ヨリ之ヲ爲スヲ得

民事原告人嫌疑アル裁判所ニ私訴ヲ爲シ又被告人其裁判所ニ於テ異議ノ申立ヲクシテ本案ニ付キ辯論ヲ爲シタル時ハ前項ノ訴ヲ爲スヲ得ス

第四百五十六條 嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ヲ

爲ヌニハ其趣意書ニ通テ原裁判所ノ書記局ニ差出
ヌ可シ

書記ハ速ニ一通ヲ對手人ニ送達シ對手人ハ其送達
アリタルヨリ三日内ニ答辯書ヲ差出スコトヲ得

第四百五十七條 大審院ニ於テハ第四百五十條ノ規

則ニ從ヒ前條ノ訴ヲ判決ヌ可シ

第四百五十八條 嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ス

リタル時ハ裁判所ニ於テ其訴訟手續ヲ停止ス

第六編 裁判執行復権及ヒ特赦

第一章 裁判執行

第四百五十九條 重罪輕罪違警罪ノ刑ハ裁判確定ノ

後ニ非サレハ之ヲ執行ヌ可ガラス

第四百六十條 死刑ノ言渡確定シタル時ハ檢察官ヨ

リ速ニ訴訟書類ヲ司法卿ニ差出ヌ可シ

司法卿ヨリ死刑ヲ執行ヌ可キノ命令アリタル時ハ

三日内ニ其執行ヲ爲ヌ可シ

第四百六十一條 死刑ヲ除クノ外刑ノ言渡確定シタ

ル時ハ直チニ之ヲ執行ヌ可シ

第四百六十二條 刑ノ執行ハ原裁判所ノ檢察官又ハ

大審院ヨリ命ヲ受ケタル裁判所ノ檢察官ノ指揮ニ
因リ之ヲ爲ヌ可シ
罰金科料裁判費用及ヒ沒收物品ハ檢察官ノ命令書
ニ依リ之ヲ徵收ヌ可シ
破壊又ハ廢棄ヌ可キ沒收物品ハ檢察官之ヲ處分ス
可シ

第四百六十三條 死刑ノ執行ニ付テハ書記其始末書
ヲ作り刑ノ執行規則ニ從ヒ立會ヲ爲シタル官吏ト
共ニ署名捺印ヌ可シ
其他刑ノ執行ニ關スル方法細目ハ別ニ規則ヲ以テ
之ヲ定ム

第四百六十四條 裁判言渡確定シ又ハ關席裁判アリ
タル時ハ其刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ書記既決
犯罪表ヲ作り左ノ條件ヲ記載ヌ可シ但大審院ニ於
テ刑ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其執行ヲ爲シタル裁判
所ノ書記之ヲ作ル可シ

一 犯人ノ氏名年齢職業住所及ヒ出生ノ地

二 罪名刑名

三 再犯

四 裁判言渡ヲ爲シタル年月日

五 對審裁判又ハ關席裁判

第四百六十五條 既決犯罪表ハ二通ヲ作り一通ヲ司

法省ニ送致シ一通ヲ其裁判所ノ書記局ニ藏置ス可シ
違警罪ノ既決犯罪表ハ一通ヲ作リ其裁判所ノ書記局ニ藏置ス可シ

第四百六十六條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者其言渡ノ條件ニ付キ疑義ノ申立又ハ其執行ニ付キ異議ノ申立ヲ爲シタル時ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ於テ之ヲ判決ス可シ

第四百六十七條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者逃亡ノ後捕ニ就キタル場合ニ於テ人違ノ申立アリタル時ハ之ヲ認定スル爲メ前ニ其罪ヲ認メタル裁判所ニ送致

ス可シ

裁判所ニ於テ水犯ナルヲ認定スルヲ能ハサル時ハ事實參考ノ爲メ曾テ其事件ニ干預シタル裁判官檢察官書記又ハ原被ノ證人ヲ呼出スヲ得

第四百六十八條 前二條ノ場合ニ於テハ公廷ニテ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ申立及ヒ檢察官ノ意見ヲ聽キ裁判言渡ヲ爲ス可シ但其言渡ニ對シテハ上訴ヲ許サス

第四百六十九條 賠償及ヒ訴訟關係人ニ償還ス可キ裁判費用ニ付キ其言渡ノ執行ハ通常民事ノ規則ニ從フ

第二章 復権

第四百七十條 復権ノ願ハ刑法第六十三條ニ定メタル期限經過シタル後刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヨリ司法卿ニ之ヲ爲ス可シ

復権ノ願書ニハ本人署名捺印シ現ニ住スル地ノ始審裁判所檢事ニ之ヲ差出ス可シ

第四百七十一條 復権ノ願書ニハ左ノ書類ヲ添フ可シ

- 一 裁判言渡書ノ謄本
- 二 主刑ノ滿期特赦又ハ期滿免除ト爲リタルコトヲ證明スル書類

三 假出獄及ヒ假ニ監視ヲ免セラレタルノ證書

四 賠償及ヒ裁判費用ヲ辯濟シ又ハ其義務ヲ免カレタルノ證書

五 過去現在ノ住所及ヒ生計ヲ記載スル書類

第四百七十二條 檢事ハ願人ノ品行其他必要ノ取調ヲ爲シ前條ノ書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ控訴裁判所檢事長ニ差出ス可シ

第四百七十三條 檢事長ハ更ニ必要ノ取調ヲ爲シ復権ノ願ニ關スル書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ司法卿ニ差出ス可シ

第四百七十四條 司法卿ハ復権ノ願ニ關スル書類ヲ

檢閱シ其願ヲ允許ス可キ者ト認メタル時ハ速ニ上奏ス可シ

第四百七十五條 勅裁又ハ司法卿ノ意見ニ因リ復權ノ願ヲ棄却シタル時ハ司法卿ヨリ其旨ヲ控訴裁判所檢事長ニ通知シ檢事長ヨリ願書ヲ差出シタル始審裁判所檢事ニ通知ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ刑法第六十三條ニ定メタル期限ノ半ヲ經過スルニ非サレハ更ニ其願ヲ爲スヲ得ス

更ニ復權ノ願ヲ爲スニ付テモ亦前數條ノ規則ニ從フ

第四百七十六條 復權ノ裁可アリタル時ハ司法卿ヨリ其裁可狀ヲ控訴裁判所檢事長ニ送致シ檢事長ヨリ願書ヲ差出シタル始審裁判所檢事ニ送致ス可シ

檢事ハ裁可狀ノ謄本ヲ願人ニ下付ス可シ

又刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ裁可狀ノ謄本ヲ送致シ其裁判所ニ於テハ之ヲ裁判言渡書ニ記入ス可シ

第三章 特赦

第四百七十七條 特赦ハ刑ノ言渡確定シタル後何時ニテモ檢察官又ハ監獄長ヨリ犯人ノ情狀ヲ具シ司法卿ニ申立ルヲ得

監獄長ヨリ特赦ノ申立ヲ爲ス時ハ檢察官ヲ經由ス可シ但檢察官ハ意見書ヲ添フ可シ
特赦ノ申立アリタル時ハ司法卿ヨリ其書類ニ意見書ヲ添へ上奏ス可シ

第四百七十八條 司法卿ハ刑ノ旨渡確定シタル後何時ニテモ特赦ノ申立ヲ爲スコトヲ得
死刑ヲ除クノ外特赦ノ申立アリト雖モ刑ノ執行ヲ停止セス

第四百七十九條 特赦ノ申立棄却アリタル時ハ司法卿ヨリ刑ノ旨渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察官ニ其旨ヲ通知ス可シ

第四百八十條 特赦ノ裁可アリタル時ハ司法卿ヨリ刑ノ旨渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察官ニ特赦狀ヲ送致ス可シ此場合ニ於テハ第四百七十六條ノ規則ニ從フ

刑法目錄

第一編 總則

第一章 法例

第二章 刑例

第一節 刑名

第二節 主刑處分

第三節 附加刑處分

第四節 徵償處分

第五節 刑期計算

第六節 假出獄

第七節 期滿免除

第八節 復權

第三章 加減例

第四章 不論罪及ヒ減輕

第一節 不論罪及ヒ宥恕減輕

第二節 自首減輕

第三節 酌量減輕

第五章 再犯加重

第六章 加減順序

第七章 數罪俱發

第八章 數人共犯

第一節 正犯

第二節 從犯

第九章 未遂犯罪

第十章 親屬例

第二編 公益ニ關スル重罪輕罪

第一章 皇室ニ對スル罪

第二章 國事ニ關スル罪

第一節 內亂ニ關スル罪

第二節 外患ニ關スル罪

第三章 靜謐ヲ害スル罪

第一節 兇徒聚衆ノ罪

第二節 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

第三節 囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪

第四節 附加刑ノ執行ヲ遁ルノ罪

第五節 私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及ヒ所
有スル罪

第六節 往來通信ヲ妨害スル罪

第七節 人ノ住所ヲ侵スル罪

第八節 官ノ封印ヲ破棄スル罪

第九節 公務ヲ行フヲ拒ム罪

第四章 信用ヲ害スル罪

第一節 貨幣ヲ偽造スル罪

第二節 官印ヲ偽造スル罪

第三節 官ノ文書ヲ偽造スル罪

第四節 私印私書ヲ偽造スル罪

第五節 免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪

第六節 偽證ノ罪

第七節 度量衡ヲ偽造スル罪

第八節 身分ヲ詐稱スル罪

第九節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪

第五章 健康ヲ害スル罪

第一節 阿片烟ニ關スル罪

第二節 飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪

第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪

第四節

危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規則ニ關スル罪

六

第五節 健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪

第六節 私ニ醫業ヲ爲ス罪

第六章 風俗ヲ害スル罪

第七章

死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪

第八章

商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪

第九章

官吏瀆職ノ罪

第一節

官吏公益ヲ害スル罪

第二節

官吏人民ニ對スル罪

第三節

官吏財産ニ對スル罪

第三編

身體財産ニ對スル重罪輕罪

第一章

身體ニ對スル罪

第一節

謀殺故殺ノ罪

第二節

毆打創傷ノ罪

第三節

殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪

第四節

過失殺傷ノ罪

第五節

自殺ニ關スル罪

第六節

擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪

第七節

脅迫ノ罪

第八節

墮胎ノ罪

第九節 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪 八

第十節 幼者ヲ畧取誘拐スル罪

第十一節 猥褻姦淫重婚ノ罪

第十二節 誣告及ヒ誹毀ノ罪

第十三節 祖父母父母ニ對スル罪

第二章 財産ニ對スル罪

第一節 竊盜ノ罪

第二節 強盜ノ罪

第三節 遺失物埋藏物ニ關スル罪

第四節 家資分散ニ關スル罪

第五節 詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル

罪

第六節 贓物ニ關スル罪

第七節 放火矢火ノ罪

第八節 決水ノ罪

第九節 船舶ヲ覆没スル罪

第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害ス

ル罪

第四編 違警罪

刑法

第一編 總則

第二章 法例

第一條 凡法律ニ於テ罰ス可キ罪別テ三種ト爲ス

一 重罪

二 輕罪

三 違警罪

第二條 法律ニ正條ナキ者ハ何等ノ所爲ト雖モ之ヲ罰スルコトヲ得ス

第三條 法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスコトヲ得ス

若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル者ハ新
舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ス

第四條 此刑法ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ論ス可
キ者ニ適用スルヲ得ス

第五條 此刑法ニ正條ナクシテ他ノ法律規則ニ刑名
アル者ハ各其法律規則ニ從フ

若シ他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケサル者ハ
此刑法ノ總則ニ從フ

第二章 刑例

第一節 刑名

第六條 刑ハ主刑及ヒ附加刑ト爲ス

主刑ハ之ヲ宣告ス

附加刑ハ法律ニ於テ其宣告スル者ト宣告セサル者
トヲ定ム

第七條 左ニ記載シタル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト爲ス

- 一 死刑
- 二 無期徒刑
- 三 有期徒刑
- 四 無期流刑
- 五 有期流刑
- 六 重懲役
- 七 輕懲役

八重禁獄

九輕禁獄

第八條 左ニ記載シタル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス

一重禁錮

二輕禁錮

三罰金

第九條 左ニ記載シタル者ヲ以テ違警罪ノ主刑ト爲

ス

一拘留

二料料

第十條 左ニ記載シタル者ヲ以テ附加刑ト爲ス

一剝奪公權

二停止公權

三禁治產

四監視

五罰金

六沒收

第十一條 刑ヲ執行シ及ヒ犯人ヲ檢束スル方法細目

ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

第二節 主刑處分

第十二條 死刑ハ絞首ス但規則ニ定ムル所ノ官吏臨

檢シ獄内ニ於テ之ヲ行フ

第十三條 死刑ハ司法卿ノ命令アルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

六

第十四條 大祀令節國祭ノ日ハ死刑ヲ行フコトヲ禁ス
第十五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分娩後一百日ヲ經ルニ非サレハ刑ヲ行ハス

第十六條 死刑ノ遺骸ハ親屬故舊請フ者アレハ之ヲ下付ヌ但式ヲ用ヒテ葬ルコトヲ許サス

第十七條 徒刑ハ無期有期ヲ分タヌ島地ニ發遣シ定役ニ服ス

有期徒刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

第十八條 徒刑ノ婦女ハ島地ニ發遣セス内地ノ懲役場ニ於テ定役ニ服ス

第十九條 徒刑ノ囚六十歳ニ滿ル者ハ通常ノ定役ヲ免シ其體力相當ノ定役ニ服ス

第二十條 流刑ハ無期有期ヲ分タヌ島地ノ獄ニ幽閉シ定役ニ服セス

有期流刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

第二十一條 無期流刑ノ囚五年ヲ經過スレハ行政ノ處分ヲ以テ幽閉ヲ免シ島地ニ於テ地ヲ限リ居住セシムルコトヲ得

有期流刑ノ囚三年ヲ經過スル者亦同シ

七

第二十二條

懲役ハ内地ノ懲役場ニ入レ定役ニ服ス

八

但六十歳ニ滿ル者ハ第十九條ノ例ニ從フ

重懲役ハ九年以上十一年以下輕懲役ハ六年以上八年以下ト爲ヌ

第二十三條

禁獄ハ内地ノ獄ニ入レ定役ニ服セス

重禁獄ハ九年以上十一年以下輕禁獄ハ六年以上八年以下ト爲ヌ

第二十四條

禁錮ハ禁錮場ニ留置シ重禁錮ハ定役ニ服シ輕禁錮ハ定役ニ服セス

禁錮ハ重輕ヲ分テ十一月以上五年以下ト爲シ仍
*各本條ニ於テ其長短ヲ區別ヌ

第二十五條

定役ニ服スル囚人ノ工錢ハ監獄ノ規則ニ從ヒ其幾分ヲ獄舎ノ費用ニ供シ其幾分ヲ囚人ニ給與ス但現役百日以内ハ給與ノ限ニ在ラヌ

第二十六條

罰金ハ二圓以上ト爲シ仍*各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ヌ

第二十七條

罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シ之ヲ輕禁錮ニ換フ其一圓ニ滿サル者ト雖モ仍ホ一日ニ計算ヌ

罰金ヲ禁錮ニ換フル者ハ更ニ裁判ヲ用ヒス檢察官ノ求ニ因リ裁判官之ヲ命ヌ但禁錮ノ期限ハ二年ニ

九

過クルヲ得ス

十

若シ禁錮限内罰金ヲ納メタル時ハ其經過シタル日數ヲ扣除シテ禁錮ヲ免ス親屬其他ノ者代テ罰金ヲ納メタル時亦同シ

第二十八條 拘留ハ拘留所ニ留置シ定役ニ服セス其刑期ハ一日以上十日以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス

第二十九條 科料ハ五錢以上一圓九十五錢以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス

第三十條 科料ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ第二十七條ノ例ニ照

シ之ヲ拘留ニ換フ

第三節 附加刑處分

第三十一條 剝奪公權ハ左ノ權ヲ剝奪ス

一 國民ノ特權

二 官吏ト爲ルノ權

三 勳章年金位記貴號恩給ヲ有スルノ權

四 外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權

五 兵籍ニ入ルノ權

六 裁判所ニ於テ證人ト爲ルノ權但單ニ事實ヲ陳述スルハ此限ニ在ラヌ

七 後見人ト爲ルノ權但親屬ノ許可ヲ得テ子孫ノ爲

十一

メニスルハ此限ニ在ラス

八分散者ノ管財人ト爲リ又ハ會社及ヒ共有財産ヲ
管理スルノ權

九學校長及ヒ教師學監ト爲ルノ權

第三十二條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告
ヲ用ヒス終身公權ヲ剝奪ス

第三十三條 禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用
ヒス現任ノ官職ヲ失ヒ及ヒ其刑期間公權ヲ行フ
ヲ停止ス

第三十四條 輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ付シタル者ハ別
ニ宣告ヲ用ヒス監視ノ期限間公權ヲ行フヲ停止

主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル者亦同シ

ス

第三十五條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告
ヲ用ヒス其主刑ノ終ルマテ自ラ財産ヲ治ムルヲ
禁ス

第三十六條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル時ハ行政
ノ處分ヲ以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルヲ得

第三十七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告
ヲ用ヒス各本刑ノ短期三分ノ一二等シキ時間監視
ニ付ス

第三十八條 輕罪ノ刑ニ附加スル監視ハ之ヲ宣告ス

但各本條ニ記載スルノ外監視ニ付スルヲ得ス

第三十九條 死刑及ヒ無期刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス五年間監視ニ付ス

第四十條 監視ノ期限ハ主刑ノ終リタル日ヨリ起算ス主刑ノ期滿免除ヲ得タル時ハ其捕ニ就キタル日ヨリ起算ス

若シ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル時ハ其裁判確定ノ日ヨリ起算ス

第四十一條 監視ニ付セラレタル者其情狀ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ假ニ監視ヲ免スルヲ得

第四十二條 附加ノ罰金ハ之ヲ宣告ス若シ一月内ニ

納完セサル時ハ第二十七條ノ例ニ照シ輕禁錮ニ換ヘ主刑滿限ノ後之ヲ執行ス

第四十三條 左ニ記載シタル物件ハ宣告シテ官ニ沒收ス但法律規則ニ於テ別ニ沒收ノ例ヲ定メタル者ハ各其法律規則ニ從フ

一 法律ニ於テ禁制シタル物件

二 犯罪ノ用ニ供シタル物件

三 犯罪ニ因テ得タル物件

第四十四條 法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收ス犯罪ノ用ニ供シ及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ犯人ノ所有ニ係リ又ハ所有主ヲ

キ時ノ外之ヲ沒收スルコトヲ得ヌ

第四節 徵償處分

第四十五條 刑事ノ裁判費用ハ其全部又ハ幾分ヲ犯人ニ科ス但其費用ノ額ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條 犯人刑ニ處セラレ又ハ放免セラルヽト雖モ被害者ノ請求ニ對シ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ免カルヽコトヲ得ヌ

第四十七條 數人共犯ニ係ル裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ共犯人ヲシテ之ヲ連帶セシム

第四十八條 裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ被害者ノ請求ニ因リ刑事裁判所ニ於テ之ヲ審判スルコト

ヲ得若シ贓物犯人ノ手ニアル時ハ請求ナシト雖モ直ニ之ヲ被害者ニ還付ス

第五節 刑期計算

第四十九條 刑期ヲ計算スルニ一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ

受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入シ放免ノ日ハ刑期ニ算入セス

第五十條 刑ハ裁判確定シタル後ニ非サレハ之ヲ執行スルコトヲ得ヌ

第五十一條 刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算ス若シ上

訴ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ從フ

十八

一 犯人自ラ上訴シテ其上訴正當ナル時ハ前判宣告ノ日ヨリ起算ス若シ其上訴不當ナル時ハ後判宣告ノ日ヨリ起算ス

二 檢察官ノ上訴ニ係ル者ハ其上訴正當ナルト否トヲ分タヌ前判宣告ノ日ヨリ起算ス

三 上訴中保釋ヲ得又ハ責付セラレタル者ハ其日數ヲ刑期ニ算入スルコトヲ得ス

第五十二條 刑期限内逃走シ再ヒ捕ニ就キタル者ハ其逃走ノ日數ヲ除キ前後受刑ノ日ヲ計算ス

第六節 假出獄

第五十三條 重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者獄則ヲ謹守シ悔改ノ狀アル時ハ其刑期四分ノ三ヲ經過スルノ後行政ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ得無期徒刑ノ囚ハ十五年ヲ經過スルノ後亦同シ流刑ノ囚ハ第二十一條ニ照シ幽閉ヲ免スルノ外假出獄ノ例ヲ用ヒス

第五十四條 徒刑ノ囚ハ假出獄ヲ許サルト雖モ仍ホ島地ニ居住セシム

第五十五條 假出獄ヲ許サレタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルコトヲ得但本刑期限内特別ニ定メタル監視ニ付ス

十九

第五十六條

假出獄中更ニ重罪

輕罪ヲ犯シタル者ハ

二十

直ニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入スルヲ得ス

第五十七條

刑期限内更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ假出獄ヲ許サス

第七節 期滿免除

第五十八條

刑ノ執行ヲ遁レタル者法律ニ定メタル期限ヲ經過スルニ因テ期滿免除ヲ得

第五十九條

主刑ハ左ノ年限ニ從テ期滿免除ヲ得
一死刑ハ三十年

二無期徒刑ハ二十五年

三有期徒刑ハ二十年

四重懲役重禁獄ハ十五年

五輕懲役輕禁獄ハ十年

六禁錮罰金ハ七年

七拘留料料ハ一年

第六十條 剝奪公權停止公權及ヒ監視ハ期滿免除ヲ得ス

附加ノ罰金ハ主刑ト共ニ期滿免除ヲ得

沒收ハ五年ヲ經テ期滿免除ヲ得但禁制物ハ期滿免除ノ限ニ在ラズ

第六十一條 期滿免除ハ刑ノ執行ヲ遁レタル日ヨリ

起算ス若シ捕ニ就キ再ヒ逃走シタル時ハ其逃走ノ日ヨリ起算シ關席裁判ニ係ル時ハ其宣告ノ日ヨリ起算ス

第六十二條 刑ノ執行ヲ遁レタル者ニ對シ逮捕ヲ命ジタル時ハ最終ノ令狀ヲ出シタル日ヨリ期滿免除ヲ起算ス

第八節 復權

第六十三條 公權ヲ剝奪セラレタル者ハ主刑ノ終リタル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後其情狀ニ因リ將來ノ公權ヲ復スルヲ得
主刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ監視ニ付シタル日ヨ

リ五年ヲ經過スルノ後亦同シ

第六十四條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ直チニ復權ヲ得特赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ赦狀中記載スルニ非サレハ復權ヲ得ス
赦ニ因テ復權ヲ得タル者ハ自ラ監視ヲ免シタル者トス

第六十五條 復權ハ勅裁ニ非サレハ之ヲ得可カラス

第三章 加減例

第六十六條 法律ニ於テ刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ後ノ數條ニ記載シタル例ニ照シテ加減ス但加ヘテ死刑ニ入ルヲ得ス

第六十七條 重罪ノ刑ノ左ノ等級ニ照シテ加減ス

二十四

一死刑

二無期徒刑

三有期徒刑

四重懲役

五輕懲役

第六十八條 國事ニ關スル重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一死刑

二無期徒刑

三有期徒刑

四重禁獄

五輕禁獄

第六十九條 輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス
輕禁獄ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

第七十條 禁錮罰金ニ該ル者減輕ス可キ時ハ各本條ニ記載シタル刑期金額ノ四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲シ其加重ス可キ時ハ亦四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ス
輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルヲ得ヌ但禁錮ハ加

ハテ七年ニ至ルヲ得

二十六

第七十一條 禁錮ヲ減盡シタル時ハ拘留ニ處シ罰金ヲ減盡シタル時ハ科料ニ處ス禁錮罰金ヲ減シテ其短期十日以下算數一圓九十五錢以下ニ及フ時ハ亦拘留科料ニ處スルヲ得

第七十二條 拘留科料ニ該ル者加減ス可キ時ハ禁錮罰金ノ例ニ照シ其四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲ス

違警罪ノ刑ハ加ヘテ經罪ニ入ルヲ得ス但拘留ハ加ヘテ十二日ニ至ルヲ得減シテ一日以下ニ降スヲ得ス科料ハ加ヘテ二圓四十錢ニ至ルヲ得減

シテ五錢以下ニ降スヲ得ス

第七十三條 禁錮拘留ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿サル時ハ之ヲ除棄ス

第七十四條 附加ノ罰金ハ主刑ニ從テ加減シ其金額ノ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲ス若シ減盡シタル時ハ止メ主刑ヲ科ス

第四章 不論罪及ヒ減輕

第一節 不論罪及ヒ宥恕減輕

第七十五條 抗拒ス可カラサル強制ニ遇ヒ其意ニ非サルノ所爲ハ其罪ヲ論セス

天災又ハ意外ノ變ニ因リ避ク可カラサル危難ニ遇

二十七

自己若シハ親屬ノ身體ヲ防衛スルニ出タル所爲
亦同シ

第七十六條 本屬長官ノ命令ニ從ヒ其職務ヲ以テ爲
シタル者ハ其罪ヲ論セス

第七十七條 罪ヲ犯ス意ナキノ所爲ハ其罪ヲ論セス
但法律規則ニ於テ別ニ罪ヲ定メタル者ハ此限ニ在
ラヌ

罪ト爲ル可キ事實ヲ知ラスシテ犯シタル者ハ其罪
ヲ論セス
罪本重カル可クシテ犯ス時知ラサル者ハ其重キニ
從テ論スルヲ得ス

法律規則ヲ知ラサルヲ以テ犯スノ意ナシト爲ヌ
ヲ得ス

第七十八條 罪ヲ犯ス時知覺精神ノ喪失ニ因テ是非
ヲ辨別セサル者ハ其罪ヲ論セス

第七十九條 罪ヲ犯ス時十二歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ
論セス但滿八歳以上ノ者ハ情狀ニ因リ滿十六歳ニ
過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルヲ得

第八十條 罪ヲ犯ス時滿十二歳以上十六歳ニ滿サル
者ハ其所爲是非ヲ辨別シタルト否トヲ審案シ辨別
ナクシテ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但情狀ニ因リ
滿二十歳ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルヲ

ヲ得

三十

若シ辨別アリテ犯シタル時ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等ヲ減ス

第八十一條 罪ヲ犯ス時滿十六歲以上二十歲ニ滿サル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減ス

第八十二條 瘖啞者罪ヲ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但情狀ニ因リ五年ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルヲ得

第八十三條 違警罪ハ滿十六歲以上二十歲ニ滿サル者ト雖モ其罪ヲ宥恕スルヲ得ス

滿十二歲以上十六歲ニ滿サル者ハ其罪ヲ宥恕シテ

本刑ニ一等ヲ減ス十二歲ニ滿サル者及ヒ瘖啞者ハ其罪ヲ論セス

第八十四條 此節ニ記載スルノ外特別ノ不論罪宥恕減輕ハ各本條ニ於テ之ヲ記載ス

第二節 自首減輕

第八十五條 罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ニ一等ヲ減ス但謀殺故殺ニ係ル者ハ自首減輕ノ限ニ在ラス

第八十六條 財産ニ對スル罪ヲ犯シタル者自首シテ其贓物ヲ還給シ損害ヲ賠償シタル時ハ自首減輕ノ外仍ホ本刑ニ二等ヲ減ス其全部ヲ還償セスト雖モ

三十一

半數以上ヲ還償シタル時ハ一等ヲ減ス

第八十七條 財産ニ對スル罪ヲ犯シ被害者ニ首服シタル者ハ官ニ自首スルト同ク前二條ノ例ニ照シテ處斷ス

第八十八條 此節ニ記載スルノ外本條別ニ自首ノ例ヲ掲ケタル者ハ各其本條ニ從フ

第三節 酌量減輕

第八十九條 重罪輕罪違警罪ヲ分タヌ所犯情狀原諒ス可キ者ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スルヲ得
法律ニ於テ本刑ヲ加重シ又ハ減輕ス可キ者ト雖モ其酌量ス可キ時ハ仍ホ之ヲ減輕スルヲ得

第九十條 酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第五章 再犯加重

第九十一條 先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯重罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

第九十二條 先ニ重罪輕罪ノ刑ニ處ラセレタル者再犯輕罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

第九十三條 先ニ違警罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯違警罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ但一年内再ヒ其違警罪裁判所ノ管轄地内ニ於テ犯シタル時ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルヲ得ス

第九十四條 再犯加重ハ初犯ノ裁判確定ノ後ニ非サ
レハ之ヲ論スルコトヲ得ス

第九十五條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯スニ因リ刑ヲ宣告
シタル時ハ先ツ其定役ニ服ス可キ者ヲ執行シ定役
ニ服セサル者ヲ後ニス若シ初犯再犯共ニ定役ニ服
スル刑ニ該ル時又ハ共ニ定役ニ服セサル刑ニ該ル
時ハ先ツ其重キ者ヲ執行ス

第九十六條 陸海軍裁判所ニ於テ判決ヲ經タル者再
ヒ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ初犯ノ非常律ニ從ヒ處
斷シタル者ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス

第九十七條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ再ヒ罪ヲ
犯スト雖モ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス

第九十八條 三犯以上ノ者ト雖モ其加重ノ法ハ再犯
ノ例ニ同シ

第六章 加減順序

第九十九條 犯罪ノ情狀ニ因リ總則ニ照シ同時ニ本
刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ左ノ順序ニ從テ其刑名ヲ
定ム但從犯及ヒ未遂犯罪ノ減等其他各本條ニ記載
スル特別ノ加重減輕ハ其加減シタル者ヲ以テ本刑
ト爲ス

一再犯加重

二宥恕減輕

三自首減輕

四酌量減輕

第七章 數罪俱發

第百條 重罪輕罪ヲ犯シ未タ判決ヲ經ス二罪以上俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從テ處斷ス

重罪ノ刑ハ刑期ノ長キ者ヲ以テ重ト爲シ刑期ノ等シキ者ハ定役アル者ヲ以テ重ト爲ス

輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最重キ者ニ從テ處斷ス

第百一條 違警罪二罪以上俱ニ發シタル時ハ各其刑ヲ科ス若シ重罪又ハ輕罪ト俱ニ發シタル時ハ一ノ

重キニ從フ

第百二條 一罪前ニ發シ己ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發

シ其輕ク若クハ等シキ者ハ之ヲ論セス其重キ者ハ

更ニ之ヲ論シ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算ス但

前發ノ刑罰金科料ニ該リ己ニ納完シタル者ハ第二

十七條ノ例ニ照シ折算シテ後發ノ刑期ニ通算ス

若シ前發ノ罪ヲ判決スル時未タ發セサル罪再犯ノ

罪ト俱ニ發シタル者ハ其再犯ト比較シ一ノ重キニ

從ヒ前發ノ刑ヲ通算セヌ

第百三條 數罪俱ニ發シ一ノ重キニ從フ時ト雖モ其沒收及ヒ徵償ノ處分ハ各本法ニ從フ

第八章 數人共犯

三十八

第一節 正犯

第四百四條 二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科ス

第四百五條 人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ亦正犯ト爲ス

第四百六條 正犯ノ身分ニ因リ別ニ刑ヲ加重ス可キ時ハ他ノ正犯從犯及ヒ教唆者ニ及ホスヲ得ス

第四百七條 犯人ノ多數ニ因リ刑ヲ加重ス可キ時ハ教唆者ヲ算入シテ多數ト爲スヲ得ス

第四百八條 事ヲ指定シテ犯罪ヲ教唆スルニ當リ犯人

教唆ニ乘シ其指定シタル以外ノ罪ヲ犯シ又ハ其現ニ行フ所ノ方法教唆者ノ指示シタル所ト殊ナル時ハ左ノ例ニ照シテ教唆者ヲ處斷ス

一所犯教唆シタル罪ヨリ重キ時ハ止メ其指定シタル罪ニ從テ刑ヲ科ス

二所犯教唆シタル罪ヨリ輕キ時ハ現ニ行フ所ノ罪ニ從テ刑ヲ科ス

第二節 從犯

第四百九條 重罪輕罪ヲ犯スヲ知テ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シ其他豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ハ從犯ト爲シ正犯ノ刑

三十九

ニ一等ヲ減ス但正犯現ニ行フ所ノ罪從犯ノ知ル所ヨリ重キ時ハ止タ其知ル所ノ罪ニ照シ一等ヲ減ス

第百十條 身分ニ因リ刑ヲ加重ス可キ者從犯ト爲ル時ハ其重キニ從テ一等ヲ減ス

第九章 未遂犯罪

第百十一條 罪ヲ犯サンコトヲ謀リ又ハ其豫備ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル者ハ本條別ニ刑名ヲ記載スルニ非サレハ其刑ヲ科セス

第百十二條 罪ヲ犯サントシテ已ニ其事ヲ行フト雖

モ犯人意外ノ障礙若クハ舛錯ニ因リ未タ遂ケサル時ハ已ニ遂ケタル者ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第百十三條 重罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス

輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ本條別ニ記載スルニ非サレハ前條ノ例ニ照シテ處斷スルコトヲ得ス

違警罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ其罪ヲ論セス

第十章 親屬例

第百十四條 此刑法ニ於テ親屬ト稱スルハ左ニ記載

シタル者ヲ云フ

- 一 祖父母父母夫妻
- 二 子孫及ヒ其配偶者
- 三 兄弟姊妹及ヒ其配偶者
- 四 兄弟姊妹ノ子及ヒ其配偶者
- 五 父母ノ兄弟姊妹及ヒ其配偶者
- 六 父母ノ兄弟姊妹ノ子
- 七 配偶者ノ祖父母父母
- 八 配偶者ノ兄弟姊妹及ヒ其配偶者
- 九 配偶者ノ兄弟姊妹ノ子
- 十 配偶者ノ父母ノ兄弟姊妹

第百十五條 祖父母ト稱スルハ高曾祖父母外祖父母

同シ父母ト稱スルハ繼父母嫡母同シ子孫ト稱スル

ハ庶子曾立孫外孫同シ兄弟姊妹ト稱スルハ異父母ノ兄弟姊妹同シ

養子其養家ニ於ル親屬ノ例ハ實子ニ同シ

第二編 公益ニ關スル重罪輕罪

第一章 皇室ニ對スル罪

第百十六條 天皇三后皇太子ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス

第百十七條 天皇三后皇太子ニ對シ不敬ノ所爲アル者ハ三月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

皇陵ニ對シ不敬ノ所爲アル者亦同シ

第百十八條 皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處ス其危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第百十九條 皇族ニ對シ不敬ノ所爲アル者ハ二月以

上四年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百十條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第二章 國事ニ關スル罪

第一節 内亂ニ關スル罪

第二百十一條 政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルヲ目的ト爲シ内亂ヲ起シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
一 首魁及ヒ教唆者ハ死刑ニ處ス
二 群衆ノ指揮ヲ爲シ其他樞要ノ職務ヲ爲シタル者

ハ無期流刑ニ處シ其情輕キ者ハ有期流刑ニ處ス
三 兵器金穀ヲ資給シ又ハ諸般ノ職務ヲ爲シタル者ハ重禁獄ニ處シ其情輕キ者ハ輕禁獄ニ處ス
四 教唆ニ乘シテ附和隨行シ又ハ指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第二百十二條 内亂ヲ起スノ目的ヲ以テ兵器彈藥船舶金穀其他軍備ノ物品ヲ劫掠シタル者ハ己ニ内亂ヲ起シタル者ノ刑ニ同シ

第二百十三條 政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタル者ハ兵ヲ舉ルニ至ラスト雖モ内亂ト同ク

論シ其教唆者及ヒ下手者ヲ死刑ニ處ス

第二百二十四條 前三條ノ罪ハ未遂犯罪ノ時ニ於テ乃チ本刑ヲ科ス

第二百二十五條 兵隊ヲ招募シ又ハ兵器金穀ヲ準備シ其他内亂ノ豫備ヲ爲シタル者ハ第二百二十一條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

内亂ノ陰謀ヲ爲シ未タ豫備ニ至ラサル者ハ各二等ヲ減ス

第二百二十六條 内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス

第二百二十七條 内亂ノ情ヲ知テ犯人ニ集會所ヲ給與シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第二百二十八條 内亂ニ乘シテ人ノ身體財産ニ對シ内亂ノ目的ニ關セサル重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ通常ノ刑ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第二節 外患ニ關スル罪

第二百二十九條 外國ニ與シテ本國ニ抗敵シ又ハ外國ト交戰中同盟國ニ抗敵シ其他本國ニ背叛シテ敵兵ニ附屬シタル者ハ死刑ニ處ス

第三百十條 交戰中敵兵ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若クハ本國及ヒ同盟國ノ都府城塞又ハ兵器彈

藥船艦其他軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス

第三百三十一條 本國及ヒ同盟國ノ軍情機密ヲ敵國ニ漏泄シ若クハ兵隊屯集ノ要地又ハ道路ノ險夷ヲ敵國ニ通知シタル者ハ無期流刑ニ處ス
敵國ノ間諜ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若クハ之ヲ藏匿シタル者亦同シ

第三百三十二條 陸海軍ヨリ委任ヲ受ケ物品ヲ供給シ及ヒ工作ヲ爲ス者交戦ノ際敵國ニ通謀シ又ハ其賂遺ヲ收受シテ命令ニ違背シ軍備ノ缺乏ヲ致シタル時ハ有期流刑ニ處ス

第三百三十三條 外國ニ對シ私ニ戰端ヲ開キタル者ハ有期流刑ニ處ス其豫備ニ止ル者ハ一等又ハ二等ヲ減ス

第三百三十四條 外國交戦ノ際本國ニ於テ局外中立ヲ布告シタル時其布告ニ違背シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百三十五條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三章 靜謐ヲ害スル罪

第一節 兇徒聚衆ノ罪

第三百三十六條 兇徒多衆ヲ嘯聚シテ暴動ヲ謀リ官吏ノ説諭ヲ受クルト雖モ仍ホ解散セサル者首魁及ヒ教唆者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス附和隨行シタル者ハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百三十七條 兇徒多衆ヲ嘯聚シテ官廳ニ喧鬧シ官吏ニ強逼シ又ハ村市ヲ騷擾シ其他暴動ヲ爲シタル者首魁及ヒ教唆者ハ重懲役ニ處ス其嘯聚ニ應シ煽動シテ勢ヲ助ケタル者ハ輕懲役ニ處シ其情輕キ者ハ一等ヲ減ス附和隨行シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百三十八條 暴動ノ際人ヲ殺死シ若クハ家屋船舶

倉庫等ヲ燒燬シタル時ハ現ニ手ヲ下シ及ヒ火ヲ放ツ者ヲ死刑ニ處ス

首魁及ヒ教唆者情ヲ知テ制セサル者亦同シ

第二節 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

第三百三十九條 官吏其職務ヲ以テ法律規則ヲ執行シ又ハ行政司法官署ノ命令ヲ執行スルニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其官吏ニ抗拒シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

暴行脅迫ヲ以テ其官吏ノ爲ス可カラサル事件ヲ行ハシメタル者亦同シ

第四百十條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ官吏ヲ毆傷シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

第四百十一條 官吏ノ職務ニ對シ其目前ニ於テ形容若クハ言語ヲ以テ侮辱シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其目前ニ非スト雖モ刊行ノ文書圖畫又ハ公然ノ演說ヲ以テ侮辱シタル者亦同シ

第三節 囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪
第四百十二條 已決ノ囚徒逃走シタル者ハ一月以上

六月以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ糞舎獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シテ逃走シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第四百十三條 已決ノ囚徒逃走ノ罪ヲ犯ス雖モ再犯ヲ以テ論ス其刑期限内再々逃走シタル者ハ再

犯ヲ以テ論ス

第四百十四條 未決ノ囚徒入監中逃走シタル者ハ第

百四十二條ノ例ニ同シ但原犯ノ罪ヲ判決スル時ニ於テ數罪俱發ノ例ニ照シテ處斷ス

第四百十五條 囚徒三人以上通謀シテ逃走シタル時

ハ第四百十二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第四百十六條 囚徒ヲ逃走セシムル爲メ兇器其他ノ器具ヲ給與シ又ハ逃走ノ方法ヲ指示シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス因テ囚徒ノ逃走ヲ致シタル時ハ一等ヲ加フ

第四百十七條 囚徒ヲ劫奪シ又ハ暴行脅迫ヲ以テ囚徒ノ逃走ヲ助ケタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ輕懲役ニ處ス

第四百十八條 囚徒ヲ看守シ又ハ護送スル者囚徒ヲ

逃走セシメタル時ハ亦前條ノ例ニ同シ

第四百十九條 前數條ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第四百五十條 看守又ハ護送者其懈怠ニ因リ囚徒ノ逃走ヲ覺ラサル時ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百五十一條 犯罪人又ハ逃走ノ囚徒及ヒ監視ニ付セラレタル者ナルコトヲ知テ之ヲ藏匿シ若クハ隱避

セシメタル者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處
シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ一等
ヲ加テ

第百五十二條 他人ノ罪ヲ免カレシメンコトヲ圖リ其
罪證ト爲ル可キ物件ヲ隠蔽シタル者ハ十一日以上
六月以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上二十圓以下ノ罰
金ヲ附加ス

第百五十三條 前二條ノ罪ヲ犯シタル者犯人ノ親屬
ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス
第四節 附刑ヲ執行シテ道ル罪

第百五十四條 公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止セ
ラレタル者私ニ其權ヲ行ヒタル時ハ一月以上一年
以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附
加ス

第百五十五條 監視ニ付セラレタル者其規則ニ違背
シタル時ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス
第百五十六條 前二條ノ罪ハ其刑期限内再ヒ犯シタ
ル時ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス

第五節 私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及ヒ所
有スル罪

第百五十七條 官命ヲ受ケヌ又ハ官許ヲ得スレテ陸

海軍ノ用ニ供スル銃砲彈藥其他破裂質ノ物品ヲ製造シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其之ヲ輸入シタル者亦同シ

前項ノ物品ヲ私ニ販賣シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百五十八條 前條ノ罪ヲ犯スト雖モ職工又ハ雇人ニシテ止メ正犯ノ使令ニ供シタル者ハ各本刑ニ照シ二等ヲ減ス

第百五十九條 前三條ノ罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケ

サル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第百六十條 第百五十七條ニ記載シタル物品ヲ私ニ所有シタル者ハ二圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百六十一條 第百五十七條ニ記載シタル物品ノ製造ニ供シタル器械ニシテ單ニ其用ニ供ス可キ者ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收ス

第六節 往來通信ヲ妨害スル罪

第百六十二條 道路橋梁河溝港埠ヲ損壞シテ往來ヲ妨害シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百六十三條 偽計又ハ威力ヲ以テ郵便ヲ妨害シ若

シハ之ヲ阻止シタル者ハ亦前條ニ同シ
第六十四條 電信ノ器械柱木ヲ損壞シ又ハ條線ヲ切斷シテ電氣ヲ不通ニ致シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ器械柱木條線ヲ損壞シテ電信ノ妨害ヲ爲スト雖モ不通ニ至ラサル時ハ一等ヲ減ス

第六十五條 汽車ノ往來ヲ妨害スル爲メ鐵道及其標識ヲ損壞シ其他危險ナル障礙ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス
第六十六條 船舶ノ往來ヲ妨害スル爲メ燈臺浮標

其他航海ノ安寧ヲ保護スル標識ヲ損壞シ又ハ詐僞ノ標識ヲ點示シタル者ハ亦前條ニ同シ

第六十七條 前數條ニ記載シタル罪其事務ニ關スル官吏及ヒ雇人職工自ラ犯シタル時ハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ

第六十八條 第六十二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ殺傷シタル者ハ殴打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第六十九條 第六十五條第六十六條ノ罪ヲ犯シ因テ汽車ヲ顛覆シ又ハ船舶ヲ覆没シタル時ハ無期徒刑ニ處シ人ヲ死ニ致シタル時ハ死刑ニ處ス

第七十條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第七節 人ノ住所ヲ侵ス罪

第七十一條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入りタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ左ニ記載シタル所爲アル時ハ一等ヲ加フ

一 門戸牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キテ入りタル時

二 兇器其他犯罪ノ用ニ供ス可キ物品ヲ携帯シテ入りタル時

三 暴行ヲ爲シテ入りタル時

四 二人以上ニテ入りタル時

七十二條 夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入りタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ前條ニ記載シタル加重ス可キ所爲アル時ハ二等ヲ加フ

七十三條 故ナク皇居禁苑離宮行在所及ヒ皇陵内ニ入りタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第八節 官ノ封印ヲ破棄スル罪

七十四條 官署ノ處分ニ因リ特別ニ家屋倉庫其

他ノ物件ニ施シタル封印ヲ破棄シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ看守者自ラ犯シタル時ハ一等ヲ加フ

第七十五條 官ノ封印ヲ破棄シテ其物件ヲ盜取シ又ハ毀壞シタル者ハ盜罪及ヒ毀壞ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第七十六條 看守者其懈怠ニ因リ封印ヲ破棄シ又ハ其物件ヲ盜取毀壞スル犯人アルコトヲ覺ラサル時ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九節 公務ヲ行フヲ拒ム罪

第七十七條 陸海軍ノ將校タル者出兵ヲ要求スル

權アル官署ヨリ其要求ヲ受ケ故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七十八條 陸海軍ノ徵兵ニ編入セララル可キ者身體ヲ毀傷シテ疾病ヲ作為シ其他詐偽ノ所爲ヲ以テ免役ヲ圖リタル時ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
若シ他人ニ囑託シ其氏名ヲ詐稱シ代テ徵募ニ應ゼシメタル者亦同シ其囑託ヲ受ケテ徵募ニ應シタル者ハ第二百三十一條ノ例ニ照シテ處斷ス

第七十九條 醫師化學家其他職業ニ因リ官署ヨリ

解剖分析又ハ鑑定ヲ命セラレタル者故ナクシテ之
ヲ肯セサル時ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス
第百八十條 裁判所ヨリ證人トシテ證據ヲ陳述スル
コトヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ
亦前條ニ同シ

第百八十一條 傳染病流行ノ際又ハ傳染病ノ疑アル
船舶入港スルニ當リ醫師其病患ヲ検査シ又ハ消滅
ノ方法ヲ陳述スルコトヲ命セラレタル者故ナクシテ
之ヲ肯セサル時ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處
ス

獸類傳染病流行ノ際獸醫此條ノ罪ヲ犯シタル時ハ

一等ヲ減ス

第四章 信用ヲ害スル罪

第一節 貨幣ヲ偽造スル罪

第百八十二條 内國通用ノ金銀貨及ヒ紙幣ヲ偽造シ
テ行使シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第百八十三條 内國ニ於テ通用スル外國ノ金銀貨ヲ
偽造シテ行使シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ二年以上五年以下ノ

重禁錮ニ處ス

第百八十四條 官許ヲ得テ發行スル銀行ノ紙幣ヲ偽

造シ若クハ變造シテ行使シタル者ハ内外國ノ區別ニ從ヒ前二條ノ例ニ照シテ處斷ス

第百八十五條 内國通用ノ銅貨ヲ偽造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第百八十六條 前數條ニ記載シタル貨幣ノ偽造變造已ニ成テ未タ行使セサル者ハ各本刑ニ照シ一等ヲ減シ其未タ成ラサル者ハ二等ヲ減ス

若シ偽造ノ器械ヲ豫備シテ未タ著手セサル者ハ各三等ヲ減ス

第百八十七條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ雇ヲ受ケタル職工ハ前數條ニ記載シタル犯人ノ受ク可キ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

若シ職工ノ補助ヲ爲シテ雜役ニ供シタル者ハ職工ノ刑ニ照シ一等又ハ二等ヲ減ス

第百八十八條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者ハ偽造變造ノ各本刑ニ照シ二等ヲ減ス

第百八十九條 偽造變造ノ貨幣ヲ内國ニ輸入シタル者ハ偽造變造ノ刑ニ同シ

第百九十條 偽造變造ノ情ヲ知テ其貨幣ヲ收受シ之

行使シタル者ハ偽造變造シテ行使シタル者ニ刑ニ照シ各二等ヲ減ス

其未タ行使セサル者ハ各三等ヲ減ス

第百九十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第百九十二條 貨幣ヲ偽造變造シ及ヒ輸入取受シタル者未タ行使セサル前ニ於テ官ニ自首シタル時ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス

若シ職工雜役及ヒ房屋ヲ給與シタル者未タ行使セサル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

第百九十三條 貨幣ヲ取受スルノ後ニ於テ偽造又ハ

變造ナルヲ知リ之ヲ行使シタル者ハ其價額二倍ノ罰金ニ處ス但其罰金ハ二圓以下ニ降ス

第二節 官印ヲ偽造スル罪

第百九十五條 御璽國璽ヲ偽造シ又ハ其偽璽ヲ使用シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第百九十五條 各官署ノ印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ重懲役ニ處ス

第百九十六條 產物商品等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ輕懲役ニ處ス

書籍什物等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ

其偽印ヲ使用シタル者ハ一年以上三年以上ノ重禁錮ニ處ス 七十四

第百九十七條 御璽國璽官印記號印章ノ影蹟ヲ盜用シタル者ハ前數條ニ記載シタル偽造ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

第百九十八條 官ヨリ發行スル各種ノ印紙界紙及ヒ郵便切手ヲ偽造變造行又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百九十九條 已ニ貼用シタル各種ノ印紙及ヒ郵便

切手ヲ再ヒ貼用シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百一條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

・第三節 官ノ文書ヲ偽造スル罪

第二百二條 詔書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

其詔書ヲ毀棄シタル者亦同シ

第二百三條 官ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行

使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其官ノ文書ヲ毀棄シタル者亦同シ

第二百四條 公債證書地券其他官吏ノ公證シタル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

若シ無記名ノ公債證書ニ係ル時ハ一等ヲ加フ

第二百五條 官吏其管掌ニ係ル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

其文書ヲ毀棄シタル者亦同シ

第二百六條 官ノ文書ヲ偽造スルニ因テ官印ヲ偽造

シ又ハ盜用シタル者ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重

キニ從テ處斷ス

第二百七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ減輕ニ因テ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第四節 私印私書ヲ偽造スル罪

第二百八條 他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ他人ノ印影ヲ盜用シタル者ハ一等ヲ減ス

第二百九條 爲替手形其他裏書ヲ以テ賣買ス可キ證

書若クハ金額ト交換ス可キ約定手形ヲ偽造シ又ハ
増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス
其手形證書ニ詐偽ノ裏書ヲ爲シテ行使シタル者亦
同シ

第二百十條 賣買貸借贈遺交換其他權利義務ニ關ス
ル證書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ
四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓
以下ノ罰金ヲ附加ス
其餘ノ私書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル
者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二
十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百十一條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシ
テ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス
第二百十二條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑
ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第五節 免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪
第二百十三條 官ノ免狀又ハ鑑札ヲ偽造シテ行使シ
タル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以
上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但官印ヲ偽造シ又ハ
盜用シタル時ハ偽造官印ノ各本條ニ照シテ處斷ス
第二百十四條 屬籍身分氏名ヲ詐稱シ其他詐偽ノ所
爲ヲ以テ免狀鑑札ヲ受ケタル者ハ十五日以上六月

以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ
附加ス

官吏情ヲ知テ其免狀鑑札ヲ下付シタル者ハ一等ヲ
加フ

第二百十五條 公務ヲ免カル可キ爲メ醫師ノ氏名ヲ
用ヒ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル者ハ自己ノ
爲メニシ他人ノ爲メニスルヲ分タス一月以上一年
以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ
附加ス

醫師囑託ヲ受ケテ其詐偽ノ證書ヲ造リタル者ハ一
等ヲ加フ

第二百十六條 陸海軍ノ徴兵ヲ免カル可キ爲メ疾病
ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル者及ヒ囑託ヲ受ケテ
其詐偽ノ證書ヲ偽リタル醫師ハ前條ノ例ニ照シ各
一等ヲ加フ

第二百十七條 免狀鑑札又ヒ疾病ノ證書ヲ増減變換
シテ行使シタル者ハ亦偽造ノ刑ニ同シ

第六節 偽證ノ罪

第二百十八條 刑事ニ關スル證人トシテ裁判所ニ呼
出サレタル者被告人ヲ曲庇スル爲メ事實ヲ掩蔽シ
テ偽證ヲ爲シタル時ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス
一 重罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ二月以上三

年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

二 輕罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

三 違警罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ違警罪ノ本條ニ依テ處斷ス

第二百十九條 偽證ノ爲メ被告人正當ノ刑ヲ免カレタル時ハ偽證者ノ刑前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ
第二百二十條 被告人ヲ陷害スル爲メ偽證ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス

一 重罪ニ陷ラシムル爲メ偽證シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

二 輕罪ニ陷ラシムル爲メ偽證シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

三 違警罪ニ陷ラシムル爲メ偽證シタル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百二十一條 偽證ノ爲メ被告人刑ニ處セラレタル後ニ於テ偽證ノ罪發覺シタル時ハ偽證者ヲ其刑

ニ反坐ス若シ反坐ノ刑前條ニ記載シタル偽證ノ刑ヨリ輕キ時ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス其刑期限内ニ於テ偽證ノ罪發覺シタル時ハ現ニ經過シタル日數ニ照シテ反坐ノ刑期ヲ減ズルヲ得但減シテ前條偽證ノ刑ヨリ降ストヲ得ス

第二百二十五條 偽證ノ爲メ被告人死刑ニ處セラレタル時ハ反坐ノ刑一等ヲ減ス其未ダ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ二等ヲ減ス

若シ被告人ヲ死ニ陥ルムノ目的ヲ以テ偽證ヲ爲シタル時ハ死刑ニ反坐ス其未ダ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ一等ヲ減ス

第二百二十三條 民事商事又ハ行政裁判ニ關シテ偽證ヲ爲レタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百二十四條 鑑定又ハ通事ノ爲メ裁判所ニ呼出サレタル者詐偽ノ陳述ヲ爲シタル時ハ前數條ニ記載シタル偽證ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百二十五條 賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐偽ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者ハ亦偽證ノ例ニ同シ

第二百二十六條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者其事件ノ裁判宣告ニ至ラサル前ニ於テ自首シタル

時ハ本刑ヲ免ス

第七節 度量衡ヲ偽造スル罪

第二百二十七條 度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シテ販賣シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ盜用シタル時ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ヌ

第二百二十八條 偽造變造ノ情ヲ知テ其度量衡ヲ販賣シタル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ減ヌ

第二百二十九條 商賈農工定規ヲ増減シタル度量衡ヲ所有シタル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處

シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
若シ其度量衡ヲ使用シテ利ヲ得タル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ヌ

第二百三十條 人ノ囑託ヲ受ケテ度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ハ其囑託シタル犯人ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ヌ

第八節 身分ヲ詐稱スル罪

第二百三十一條 官署ニ對シ文書又ハ言語ヲ以テ其屬籍身分氏名年齢職業ヲ詐稱シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ヌ

第二百三十二條 官職位階ヲ詐稱シ又ハ官ノ服飾徽

章若クハ内外國ノ勳章ヲ僭用シタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪

第二百三十三條 公選ノ投票ヲ偽造シ又ハ其數ヲ増減シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十四條 賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十五條 投票ヲ檢査シ及ヒ其數ヲ計算スル者其投票ヲ偽造シ又ハ増減シタル時ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十六條 調書ヲ造リ投票ノ結局ヲ報告スル者其數ヲ増減シ其他詐偽ノ所爲アル時ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五章 健康ヲ害スル罪

第一節 阿片ニ關スル罪

第二百三十七條 阿片烟ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之

ヲ販賣シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

第二百三十八條 阿片烟ヲ吸食スルノ器具ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第二百三十九條 稅關官吏情ヲ知テ阿片烟及ヒ其器具ヲ輸入セシメタル者ハ前二條ノ刑ニ照シ各一等ヲ加フ

第二百四十條 阿片烟ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖ル者ハ輕懲役ニ處ス

人ヲ引誘シテ阿片烟ヲ吸食セシメタル者亦同シ

第二百四十一條 阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二百四十二條 阿片烟及ヒ吸食ノ器具ヲ所有シ又ハ受寄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二節 飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪

第二百四十三條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十四條 人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ用ヒテ水質ヲ變シ又ハ腐敗セシメタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ

附加ス

第二百四十五條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪

第二百四十六條 傳染病豫防ノ爲メ設ケタル規則ニ違背シテ入港ノ船舶ヨリ上陸シ又ハ物品ヲ陸地ニ運搬シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十七條 船長自ラ前條ノ罪ヲ犯シ又ハ人ノ犯スヲ知テ制セサル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ加フ

第二百四十八條 傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ流行地方ヨリ他處ニ出タル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十九條 獸類ノ傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ獸類ヲ他處ニ出シタル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四節 危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規則ニ關スル罪

第二百五十條 官許ヲ得スシテ危害ヲ生ス可キ物品

ノ製造所ヲ創設シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十一條 官許ヲ得テ前條ニ記載シタル製造所ヲ創設スト雖モ危害ヲ豫防シ健康ヲ保護スル規則ニ違背シタル者ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス
第二百五十二條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第五節 健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑ヲ販

賣スル罪

第二百五十三條 人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ飲食物ニ混和シテ販賣シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十四條 規則ニ違背シテ毒藥劇藥ヲ販賣シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ至シタル者ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第六節 私ニ醫業ヲ爲ス罪

第二百五十六條 官許ヲ得スシテ醫業ヲ爲シタル者

八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
第二百五十七條 前條ノ犯人治療ノ方法ヲ誤リ因テ
人ヲ死傷ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ
重キニ從テ處斷ス

第六章 風俗ヲ害スル罪

第二百五十八條 公然猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ三
圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十九條 風俗ヲ害スル冊子圖畫其他猥褻ノ
物品ヲ公然陳列シ又ハ販賣シタル者ハ四圓以上四
十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百六十條 賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ

招結シタル者ハ三月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ
十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十一條 財物ヲ賭シテ現ニ博奕ヲ爲シタル
者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五
十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其情ヲ知テ房屋ヲ給與シ
タル者亦同シ但飲食物ヲ賭スル者ハ此限ニ在ラス
賭博ノ器具財物其現場ニ在ル者ハ之ヲ沒收ス

第二百六十二條 財物ヲ隙集シ富籤ヲ以テ利益ヲ僥
倖スルノ業ヲ興行シタル者ハ一月以上六月以下ノ
重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十三條 神祠佛堂墓所其他禮拜所ニ對シ公

然不敬ノ所爲アル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ説教又ハ禮拜ヲ妨害シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七章 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪

第二百六十四條 埋葬ス可キ死屍ヲ毀棄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十五條 墳墓ヲ發掘シテ棺槨又ハ死屍ヲ見ハシタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ死屍ヲ毀棄シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十六條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第八章 商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪

第二百六十七條 偽計又ハ威力ヲ以テ穀類其他衆人ノ需用ニ缺ク可カラサル食用物ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
前項ニ記載シタル以外ノ物品ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ一等ヲ減ス

第二百六十八條 偽計又ハ威力ヲ以テ糶賣又ハ入札
ヲ妨害シタル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ
處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十九條 偽計又ハ威力ヲ以テ農工ノ業ヲ妨
害シタル者ハ亦前條ニ同シ

第二百七十條 農工ノ雇人其雇賃ヲ増サシメ又ハ農
工業ノ景況ヲ變セシムル爲メ雇主及ヒ他ノ雇人ニ
對シ偽計威力ヲ以テ妨害ヲ爲シタル者ハ一月以上
六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰
金ヲ附加ス

第二百七十一條 雇主其雇賃ヲ減シ又ハ農工業ノ景

況ヲ變ズル爲メ雇人及ヒ他ノ雇主ニ對シ偽計威力
ヲ以テ妨害ヲ爲シタル者ハ亦前條ニ同シ

第二百七十二條 虛偽ノ風説ヲ流布シテ穀類其他衆
人需用物品ノ價直ヲ昂低セシメタル者ハ十圓以上
百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九章 官吏瀆職ノ罪

第一節 官吏公益ヲ害スル罪

第二百七十三條 官吏其管掌ニ係ル法律規則ヲ公布
施行セヌ又ハ他ノ官吏ノ公布施行ヲ妨害シタル者
ハ二月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十
圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十四條

兵隊ヲ要求シ及ヒ之ヲ使用スル權

アル官吏地方ノ騷擾其他兵權ヲ以テ鎮撫ス可キ時

ニ當リ其處分ヲ爲サザル者ハ三月以上三年以下ノ

輕禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十五條

官吏規則ニ違背シテ商業ヲ爲シタ

ル者ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二節 官吏人民ニ對スル罪

第二百七十六條

官吏擅ニ威權ヲ用ヒ人ヲシテ其權

利ナキ事ヲ行ハシメ又ハ其爲ス可キ權利ヲ妨害シ

タル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓

以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十七條

人ノ身體財產ヲ妨害スルノ犯人ア

ルニ當リ豫審判事檢事警察官吏其報告ヲ受ケテ速

ニ保護ノ處分ヲ爲サザル者ハ十五日以上三月以下

ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加

ス

第二百七十八條

逮捕官吏法律ニ定メタル程式規則

ヲ遵守セズシテ人ヲ逮捕シ又ハ不正ニ人ヲ監禁シ

タル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓

以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但監禁日數十日ヲ

過クル毎ニ一等ヲ加フ

第二百七十九條

司獄官吏程式規則ヲ遵守セズシテ

囚人ヲ監禁シ若クハ囚人ヲ出獄セシム可キノ時ニ至リ之ヲ放免セサル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第二百八十條 前二條ニ記載シタル官吏又ハ護送者囚人ニ對シ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ囚人ヲ死傷ニ致シタル時ハ殴打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

第二百八十一條 水火震災ノ際官吏囚人ノ監禁ヲ解クヲ怠リ因テ死傷ニ致シタル者ハ殴打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加フ

第二百八十二條 裁判官檢事及ヒ警察官吏被告人ニ

對シ罪狀ヲ陳述セシムル爲メ暴行ヲ加ヘ又ハ凌虐ノ所爲アル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ被告人ヲ死傷ニ致シタル時ハ殴打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

第二百八十三條 裁判官檢察官故ナクシテ刑事ノ訴ヲ受理セス又ハ遷延シテ審理セサル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其民事ノ訴ニ係ル者亦同シ

第二百八十四條 官吏人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ不正ノ處分ヲ爲シタル時ハ一等ヲ加フ
第二百八十五條 裁判官民事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ不正ノ裁判ヲ爲シタル時ハ一等ヲ加フ
第二百八十六條 裁判官檢察官官吏刑事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月

以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ被告人ヲ曲庇シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
其被告人ヲ陷害シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
若シ枉斷シタル所ノ刑此刑ヨリ重キ時ハ第二百二十一條第二百二十二條ノ例ニ照シテ反坐ス

第二百八十七條 裁判官檢察官官吏賄賂ヲ收受聽許セスト雖モ情ニ徇カヒ又ハ怨ヲ挾サミ被告人ヲ曲庇陷害シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第二百八十八條 前數條ニ記載シタル賄賂已ニ收受シタル者ハ之ヲ沒收シ費用シタル者ハ其價ヲ追徵ス

第三節 官吏財産ニ對スル罪

第二百八十九條 官吏自ラ監守スル所ノ金穀物件ヲ竊取シタル者ハ輕懲役ニ處ス

因テ官ノ文書簿冊ヲ増減變換シ又ハ毀棄シタル時ハ第二百五條ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百九十條 租稅其他諸般ノ入額ヲ徵收スル官吏正數外ノ金穀ヲ徵收シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加

ス

第二百九十一條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三編 身體財産ニ對スル重罪輕罪

第一章 身體ニ對スル罪

第一節 謀殺故殺ノ罪

第二百九十二條 豫メ謀テ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ノ罪ト爲シ死刑ニ處ス

第二百九十三條 毒物ヲ施用シテ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ヲ以テ論シ死刑ニ處ス

第二百九十四條 故意ヲ以テ人ヲ殺シタル者ハ故殺ノ罪ト爲シ無期徒刑ニ處ス

第二百九十五條 支解折割其他慘刻ノ所爲ヲ以テ人ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百九十六條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免カル、爲メ人ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百九十七條 人ヲ殺スノ意ニ出テ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ死ニ致シタル者ハ故殺ヲ以テ論シ其豫メ謀ル者ハ謀殺ヲ以テ論ス

第二百九十八條 謀殺故殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺シタル者ハ仍ホ謀故殺ヲ以テ論ス

第二節 殴打創傷ノ罪

第二百九十九條 人ヲ殴打創傷シ因テ死ニ致シタル者ハ重懲役ニ處ス

第三百條 人ヲ殴打創傷シ其兩目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ又ハ兩肢ヲ折リ及ヒ舌ヲ斷テ陰陽ヲ毀敗シ若クハ知覺精神ヲ喪失セシメ篤疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ又ハ一肢ヲ折リ其他身體ヲ殘虧シ癱疾ニ致シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百一條 人ヲ殴打創傷シ二十日以上ノ時間疾病ニ罹リ又ハ職業ヲ營ムコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス
其疾病休業ノ時間二十日ニ至ラサル者ハ一月以上

二年以下ノ重禁錮ニ處ス

疾病休業ニ至ラスト雖モ身體ニ創傷ヲ成シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百二條 豫メ謀テ人ヲ毆打創傷シ休業癱篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ前數條ニ記載シタル刑ニ照シ各一等ヲ加フ

第三百三條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ己ニ犯シテ其罪ヲ免カル、爲メ人ヲ毆打創傷シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第三百四條 毆打ニ因リ誤テ他人ヲ創傷シタル者ハ仍ホ毆打創傷ノ本刑ヲ科ス

第三百五條 二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタル者ハ現ニ手ヲ下シ傷ヲ成スノ輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ科ス若シ共毆シテ傷ヲ成スノ輕重ヲ知ル、能ハサル時ハ其重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減ス但教唆者ハ減等ノ限ニ在ラス

第三百六條 二人以上共ニ人ヲ毆打スルニ當リ自ラ人ヲ傷セスト雖モ幫助シテ傷ヲ成サシメタル者ハ現ニ傷ヲ成シタル者ノ刑ニ一等ヲ減ス

第三百七條 健康ヲ害ス可キ物品ヲ施用シテ人ヲ疾苦セシメタル者ハ豫メ謀テ毆打創傷スルノ例ニ照シテ處斷ス

第三百八條 人ヲ殺スノ意ニ非スト雖モ詐稱誘導シ
テ危害ニ陷レ因テ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創
傷ヲ以テ論ス

第三節 殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪

第三百九條 自己ノ身體ニ暴行ヲ受クルニ因リ直チ
ニ怒ヲ發シ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス
但不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者此限ニ
在ラス

第三百十條 毆打シテ互ニ創傷シ其手ヲ下スノ先後
ヲ知ルコト能ハサル者ハ各其罪ヲ宥恕スルコトヲ得

第三百十一條 本夫其妻ノ姦通ヲ覺知シ姦所ニ於テ

直チニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕
ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ此限ニ在ラス
第三百十二條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入
リ若クハ門戸牆壁ヲ踰越損壞セントスル者ヲ防止
スル爲メ之ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス

第三百十三條 前數條ニ記載シタル宥恕ス可キ罪ハ
各本刑ニ照シ二等又ハ三等ヲ減ス

第三百十四條 身體生命ヲ正當ニ防衛シ己ムコトヲ得
サルニ出テ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ自己ノ爲メニ
シ他人ノ爲メニスルヲ分タス其罪ヲ論セス但不正
ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラ

ス

第三百十五條 左ノ諸件ニ於テ己ムコトヲ得サルニ出

テ人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ論セス

一 財産ニ對シ放火其他暴行ヲ爲ス者ヲ防止スルニ

出タル時

二 盜犯ヲ防止シ又ハ盜賊ヲ取還スルニ出タル時

三 夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門

戸牆壁ヲ踰越損壞スル者ヲ防止スルニ出タル時

第三百十六條 身體財産ヲ防衛スルニ出ルト雖モ己

ムコトヲ得サルニ非スシテ害ヲ暴行人ニ加ヘ又ハ危

害己ニ去リタル後ニ於テ勢ニ乘シ仍ホ害ヲ暴行人

ニ加ヘタル者ハ不論罪ノ限ニ在ラス但情狀ニ因リ

第三百十三條ノ例ニ照シ其罪ヲ宥恕スルコトヲ得

第四節 過失殺傷ノ罪

第三百十七條 疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セス過

失ニ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ二十圓以上二百圓

以下ノ罰金ニ處ス

第三百十八條 過失ニ因テ人ヲ創傷シ癱篤疾ニ致シ

タル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十九條 過失ニ因テ人ヲ創傷シ疾病休業ニ至

ラシメタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五節 自殺ニ關スル罪

第三百二十條 人ヲ教唆シテ自殺セシメ又ハ囑託ヲ受ケテ自殺人ノ爲メニ手ヲ下シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其他自殺ノ補助ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス

第三百二十一條 自己ノ利ヲ圖リ人ヲ教唆シテ自殺セシメタル者ハ重懲役ニ處ス

第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪

第三百二十二條 擅ニ人ヲ逮捕シ又ハ私家ニ監禁シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但監禁日數十日ヲ

過クル毎ニ一等ヲ加フ

第三百二十三條 擅ニ人ヲ監禁制縛シテ毆打拷責シ又ハ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百二十四條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第三百二十五條 擅ニ人ヲ監禁シ水火震災ノ際其監禁ヲ解クヲ怠リ因テ死傷ニ致シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第七節 脅迫ノ罪

第三百二十六條 人ヲ殺サント脅迫シ又ハ人ノ住居
シタル家屋ニ放火セント脅迫シタル者ハ一月以上
六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰
金ヲ附加ス

毆打創傷其他暴行ヲ加ヘント脅迫シ又ハ財産ニ放
火シ及ヒ毀壞劫掠セント脅迫シタル者ハ十一日以
上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰
金ヲ附加ス

第三百二十七條 兇器ヲ持シテ前條ノ罪ヲ犯シタル
者ハ各一等ヲ加フ

第三百二十八條 親屬ニ害ヲ加フ可キ事ヲ以テ脅迫
シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第三百二十九條 此節ニ記載シタル罪ハ脅迫ヲ受ケ
タル者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第八節 墮胎ノ罪

第三百三十條 懐胎ノ婦女藥物其他ノ方法ヲ以テ墮
胎シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十一條 藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎セシメ
タル者ハ亦前條ニ同シ因テ婦女ヲ死ニ致シタル者
ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十二條 醫師穩婆又ハ藥商前條ノ罪ヲ犯シ

タル者ハ各一等ヲ加フ
第三百三十三條 懐胎ノ婦女ヲ威逼シ又ハ誑騙シテ
墮胎セシメタル者ハ一年以上四年以下ノ重禁錮ニ
處ス

第三百三十四條 懐胎ノ婦女ナルヲ知テ毆打其他
暴行ヲ加ヘ因テ墮胎ニ至ラシメタル者ハ二年以上
五年以下ノ重禁錮ニ處ス其墮胎セシムルノ意ニ出
タル者ハ輕懲役ニ處ス

第三百三十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ癡篤
疾又ハ死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ
重キニ從テ處斷ス

第九節 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪

第三百三十六條 八歳ニ滿サル幼者ヲ遺棄シタル者
ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス
自ラ生活スルヲ能ハサル老疾者ヲ遺棄シタル
者亦同シ

第三百三十七條 八歳ニ滿サル幼者又ハ老疾者ヲ寥
闕無人ノ地ニ遺棄シタル者ハ四月以上四年以下ノ
重禁錮ニ處ス

第三百三十八條 給料ヲ得テ人ノ寄託ヲ受ケ保養ス
可キ者前二條ノ罪ヲ犯シタル時ハ各一等ヲ加フ
第三百三十九條 幼者老疾者ヲ遺棄シ因テ癡疾ニ致

シタル者ハ輕懲役ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ重懲役ニ處シ死ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

第三百四十條 自己ノ所有地又ハ看守ス可キ地内ニ遺棄セラレタル幼者老疾者アルヲ知テ之ヲ扶助セズ又ハ官署ニ申告セサル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ疾病ニ罹リ昏例スル者アルヲ知テ扶助セズ又ハ申告セサル者亦同シ

第十節 幼者ヲ畧取誘拐スル罪

第三百四十一條 十二歳ニ滿サル幼者ヲ畧取シ又ハ誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ

二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十二條 十二歳以上二十歳ニ滿サル幼者ヲ畧取シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十三條 畧取誘拐シタル幼者ナルヲ知テ自己ノ家屬僕婢ト爲シ又ハ其他ノ名稱ヲ以テ之ヲ收受シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

第三百四十四條 前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但畧取誘拐セラレタル幼者式ニ從テ婚姻ヲ爲シタル時ハ告訴ノ效ナシ

第三百四十五條 二十歳ニ滿サル幼者ヲ畧取誘拐シテ外國人ニ交付シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第十一節 猥褻姦淫重婚ノ罪

第三百四十六條 十二歳ニ滿サル男女ニ對シ猥褻ノ所行ヲ爲シ又ハ十二歳以上ノ男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以上以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附

加ス

第三百四十七條 十二歳ニ滿サル男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十八條 十二歳以上ノ婦女ヲ強姦シタル者ハ輕懲役ニ處ス

藥酒等ヲ用ヒ人ヲ昏睡セシメ又ハ精神ヲ錯亂セシメテ姦淫シタル者ハ強姦ヲ以テ論ス

第三百四十九條 十二歳ニ滿サル幼女ヲ姦淫シタル者ハ輕懲役ニ處ス若シ強姦シタル者ハ重懲役ニ處

ヌ

第三百五十條 前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第三百五十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ殴打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス但強姦ニ因テ癱篤疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第三百五十二條 十六歳ニ滿サル男女ノ淫行ヲ勸誘シテ媒合シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百五十三條 有夫ノ婦姦通シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其相姦スル者亦同シ此條ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ告訴ノ效ナシ

第三百五十四條 配偶者アル者重テ婚姻ヲ爲シタル時ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十二節 誣告及ヒ誹毀ノ罪

第三百五十五條 不實ノ事ヲ以テ人ヲ誣告シタル者ハ第二百二十條ニ記載シタル偽證ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百五十六條 誣告ヲ爲スト雖モ被告人ノ推問ヲ始メサル前ニ於テ誣告者自首シタル時ハ本刑ヲ免ヌ

第三百五十七條 誣告ニ因テ被告人刑ニ處セラレタル時ハ第二百二十一條第二百二十二條ニ記載シタル例ニ照シテ處斷ス

第三百五十八條 惡事醜行ヲ觸發シテ人ヲ誹毀シタル者ハ事實ノ有無ヲ問ハヌ左ノ例ニ照シテ處斷ス
一公然ノ演說ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

二書類畫圖ヲ公布シ又ハ雜劇偶像ヲ作爲シテ人ヲ誹毀シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百五十九條 死者ヲ誹毀シタル者ハ誣罔ニ出タルニ非サレハ前條ノ例ニ照シテ處斷スルヲ得ス

第三百六十條 醫師藥商穩婆又ハ代言人辯護人代書人若クハ神官僧侶其身分職業ニ於テ委託ヲ受ケタル事ニ因リ知得タル陰私ヲ漏告シタル者ハ誹毀ヲ以テ論シ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但裁判所ノ呼出ヲ受ケテ事實ヲ陳述スル者ハ此限ニ在ラス

第三百六十一條 此節ニ記載シタル誹毀ノ罪ハ被害者又ハ死者ノ親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第十三節 祖父母父母ニ對スル罪

第三百六十二條 子孫其祖父母父母ヲ謀殺故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

其自殺ニ關スル罪ハ凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ加フ

第三百六十三條 子孫其祖父母父母ニ對シ殴打創傷ノ罪其他監禁脅迫遺棄誣告誹毀ノ罪ヲ犯シタル者ハ各本條ニ記載シタル凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ加フ但癱疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ

處ス

第三百六十四條 子孫其祖父母父母ニ對シ衣食ヲ供給セズ其他必要ナル奉養ヲ缺キタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第三百六十五條 祖父母父母ニ對シタル殺傷ノ罪ハ特別ノ宥恕及ヒ不論罪ノ例ヲ用フルコトヲ得ス但其犯ス時知ラサル者ハ此限ニ在ラス

第二章 財産ニ對スル罪

第一節 竊盜ノ罪

第三百六十六條 人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百六十七條 水火震災其他ノ變ニ乘シテ竊盜ヲ犯シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百六十八條 門戸牆壁ヲ踰越損壞シ若クハ鎖鑰ヲ開キ邸宅倉庫ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ亦前條ニ同シ

第三百六十九條 二人以上共ニ前三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

第三百七十條 兇器ヲ携帯シテ人ノ住居シタル邸宅ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第三百七十一條 自己ノ所有物ト雖モ典物トシテ他人ニ交付シ又ハ官署ノ命令ニ因リ他人ノ看守シタル時之ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論ス

第三百七十二條 田野ニ於テ穀類菜菓其他ノ產物ヲ竊取シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百七十三條 山林ニ於テ竹木礦物其他ノ產物ヲ竊取シ又ハ川澤池沼湖海ニ於テ人ノ生養シ若クハ

營業ニ關スル產物ヲ竊取シタル者ハ亦前條ニ同シ
第三百七十四條 牧場ニ於テ牧畜ノ獸類ヲ竊取シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百七十五條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サント

シテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百七十六條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ附ス

第三百七十七條 祖父母父母夫妻子孫及ヒ其配偶者又ハ同居ノ兄弟姊妹互ニ其財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論スルノ限ニ在ラス

若シ他人共ニ犯シテ財物ヲ分チタル者ハ竊盜ヲ以テ論ス

第二節 強盜ノ罪

第三百七十八條 人ヲ脅迫シ又ハ暴行ヲ加ヘテ財物

ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ輕懲役ニ處ス

第三百七十九條 強盜左ニ記載シタル情狀アル者ハ

一個毎ニ一等ヲ加フ

一二人以上共ニ犯シタル時

二兇器ヲ携帯シテ犯シタル時

第三百八十條 強盜人ヲ傷シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス

第三百八十一條 強盜婦女ヲ強姦シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第三百八十二條 竊盜財ヲ得テ其取還ヲ拒ク爲メ臨時暴行脅迫ヲ爲シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス

第三百八十三條 藥酒等ヲ用ヒ人ヲ醉迷セシメ其財物ヲ盜取シタル者ハ強盜ヲ以テ論シ輕懲役ニ處ス
第三百八十四條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ減輕ニ因テ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三節 遺失物埋藏物ニ關スル罪

第三百八十五條 遺失及ヒ漂流ノ物品ヲ拾得テ隱匿シ所有主ニ還付セス又ハ官署ニ申告セサル者ハ十日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百八十六條 他人ノ所有地内ニ於テ埋藏ノ物品

ヲ掘得テ隱匿シタル者ハ亦前條ニ同シ

第三百八十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者
第三百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

第四節 家資分散ニ關スル罪

第三百八十八條 家資分散ノ際其財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虛偽ノ負債ヲ増加シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

情ヲ知テ虛偽ノ契約ヲ承諾シ若クハ其媒介ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス

第三百八十九條 家資分散ノ際牒簿ノ類ヲ藏匿毀棄

シ若クハ分散決定ノ後債主中ノ一人又ハ數人ニ其
負債ヲ私償シテ他ノ債主ヲ害シタル者ハ一月以上
二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第五節 詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル
罪

第三百九十條 人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ
證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪ト爲シ二月
以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下
ノ罰金ヲ附加ス
因テ官私ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ
偽造ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第三百九十一條 幼者ノ知慮淺薄又ハ人ノ精神錯亂
シタルニ乘シテ其財物若クハ證書類ヲ授與セシメ
タル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第三百九十二條 物件ヲ販賣シ又ハ交換スルニ當リ
其物質ヲ變シ若クハ分量ヲ偽テ人ニ交付シタル者
ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第三百九十三條 他人ノ動産不動産ヲ冒認シテ販賣
交換シ又ハ抵當典物ト爲シタル者ハ詐欺取財ヲ以
テ論ス

自己ノ不動産ト雖モ己ニ抵當典物ト爲シタルヲ欺
隱シテ他人ニ賣與シ又ハ重子テ抵當典物ト爲シタ

ル者亦同シ

第三百九十四條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ附ス

第三百九十五條 受寄ノ財物借用物又ハ典物其他委託ヲ受ケタル金額物件ヲ費消シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス若シ騙取拐帶其他詐欺ノ所爲アル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第三百九十六條 自己ノ所有ニ係ルト雖モ官署ヨリ差押ヘタル物件ヲ藏匿脱漏シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス但家資分散ノ際此罪ヲ犯シタル者ハ第三百八十八條ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百九十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス
第三百九十八條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者
第三百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

第六節 贓物ニ關スル罪

第三百九十九條 強竊盜ノ贓物ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以

下ノ監視ニ付ス

第四百一條 詐欺取財其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナルヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七節 放火失火ノ罪

第四百二條 火ヲ放テ人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス

第四百三條 火ヲ放テ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ燒燬シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第四百四條 火ヲ放テ廢屋及ヒ柴草肥料等ヲ貯フル

屋舎ヲ燒燬シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四百五條 火ヲ放テ人ヲ乗載シタル船舶氣車ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス

其人ヲ乗載セサル船舶氣車ニ係ル時ハ重懲役ニ處ス

第四百六條 火ヲ放テ山林ノ竹木田野ノ穀麥又ハ露積シタル柴草竹木其他ノ物件ヲ燒燬シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第四百七條 火ヲ放テ自己ノ家屋ヲ燒燬シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第四百八條 放火ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ

六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第四百九條 火ヲ失シテ人ノ家屋財産ヲ燒燬シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百十條 火藥其他激發ス可キ物品又ハ煤氣井蒸氣罐ヲ破裂セシメテ人ノ家屋財産ヲ毀壞シタル者ハ其故意ニ出ルト過失トテ分テ放火失火ノ例ニ照シテ處斷ス

第八節 決水ノ罪

第四百十一條 堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞シテ人ノ住居シタル家屋ヲ漂失シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

若シ人ノ住居セザル家屋其他ノ建造物ヲ漂失シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四百十二條 堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シテ田圃礦坑牧場等ヲ荒廢シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第四百十三條 他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ圖ル爲メ堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シ其他水利ヲ妨害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百十四條 過失ニ因テ水害ヲ起シタル者ハ失火ノ例ニ照シテ處斷ス

第九節 船舶ヲ覆沒スル罪

第四百十五條 衝突其他ノ所爲ヲ以テ人ヲ乗載シタル船舶ヲ覆没シタル者ハ死刑ニ處ス但船中死亡ナキ時ハ無期徒刑ニ處ス

第四百十六條 前條ノ所爲ヲ以テ人ヲ乗載セサル船舶ヲ覆没シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

第四百十七條 人ノ家屋其他ノ建造物ヲ毀壞シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ

照シ重キニ從テ處斷ス

第四百十八條 人ノ家屋ニ屬スル牆壁及ヒ園池ノ裝飾又ハ田圃ノ樊圍牧場ノ柵欄ヲ毀壞シタル者ハ十日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百十九條 人ノ稼穡竹木其他需用ノ植物ヲ毀損シタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百二十條 土地ノ經界ヲ表シタル物件ヲ毀壞シ又ハ移轉シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百二十一條 人ノ器物ヲ毀棄シタル者ハ十一日
以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓
以下ノ罰金ニ處ス

第四百二十二條 人ノ牛馬ヲ殺シタル者ハ一月以上
六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰
金ヲ附加ス

第四百二十三條 前條ニ記載シタル以外ノ家畜ヲ殺
シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス但被
害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第四百二十四條 人ノ權利義務ニ關スル證書類ヲ毀
棄滅盡シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處

シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四編 違警罪

第四百二十五條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

一規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂ス可キ物品ヲ市街ニ運搬シタル者

二規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂ス可キ物品又ハ自ラ火ヲ發ス可キ物品ヲ貯藏シタル者

三官許ヲ得スシテ烟火ヲ製造シ又ハ販賣シタル者
四人家稠密ノ場所ニ於テ濫リニ烟火其他火器ヲ玩

ヒタル者

五 蒸氣器械其他烟筒火竈ヲ建造修理シ及ヒ掃除スル規則ニ違背シタル者

六 官署ノ督促ヲ受ケテ崩壊セントスル家屋牆壁ノ修理ヲ爲ササル者

七 官許ヲ得スシテ死屍ヲ解剖シタル者

八 自己ノ所有地内ニ死屍アルヲ知テ官署ニ申告セス又ハ他所ニ移シタル者

九 人ヲ毆打シテ創傷疾病ニ至ラサル者

十 密ニ賣淫ヲ爲シ又ハ其媒合容止ヲ爲シタル者

十一 一人ノ住居セサル家屋内ニ潜伏シタル者

十二 定リタル住居ナク平常營生ノ産業ナクシテ諸

ニ

方ニ徘徊スル者

十三 官許ノ墓地外ニ於テ私ニ埋葬シタル者

十四 違警罪ノ犯人ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者但

被告人偽證ノ爲メ刑ヲ免カレタル時ハ第二百十

九條ノ例ニ從フ

第四百二十六條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ二日以上

五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢

以下ノ科料ニ處ス

一人家ノ近傍又ハ山林田野ニ於テ濫リニ火ヲ焚ク者

二 水火其他ノ變ニ際シ官吏ヨリ防禦ス可キノ求メ

ヲ受ケ傍觀シテ之ヲ肯セサル者

三不熟ノ菓物又ハ腐敗シタル飲食物ヲ販賣シタル者

四健康ヲ保護スル爲メ設ケタル規則又ハ傳染病豫防規則ニ違背シタル者

五人ノ通行ス可キ場所ニアル危険ノ井溝其他凹所ニ蓋又ハ防圍ヲ爲ササル者

六路上ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ嚇シ又ハ驚逸セシメタル者

七發狂人ノ看守ヲ怠リ路上ニ徘徊セシメタル者

八狂犬猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ路上ニ放チタル者

九變死人ノ檢視ヲ受ケスシテ埋葬シタル者

十墓碑及ヒ路上ノ神佛ヲ毀損シ又ハ汚瀆シタル者

十一神祠佛堂其他公ノ建造物ヲ汚損シタル者

十二公然人ヲ罵詈嘲弄シタル者但訴ヲ待テ其罪ヲ

論ス

第四百二十七條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上

三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五

錢以下ノ科料ニ處ス

一濫リニ車馬ヲ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

二制止ヲ肯セスシテ人ノ群集シタル場所ニ車馬ヲ

牽キタル者